
光と闇にみちびかれて

創涙ハカル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

光と闇にみちびかれて

【NZコード】

N84480

【作者名】

創涙ハカル

【あらすじ】

光条まどかは 幼い頃から 風に守られているのを感じていた。
ある日 親友、夕闇華恋と帰り道
突然 まばゆい光にさらされる。
ふと目を開けたとき
そこは 見知らぬ世界だった。

「やつば、遅刻しちやう」携帯を見ると 時刻は朝の8時だつた。光条まどかは汗つて走りだす。

しばらく走つていが、公園を通り掛かると足を止めた。

そこには木の近くで泣いている女の子が一人。

「どうしたの？」

まどかが声を掛けると女の子は木を指差して、あれが取れないの。と訴えた。

まどかが見上げると木の枝に赤い風船が引っ掛けている。

「大丈夫。お姉ちゃんが取つてあげる！」

そういうと まどかは木によじ登ると 風船に向かつて手を伸ばした。しかし、もう少しとくに手が届かない。

「お姉ちゃん、頑張つて~」

女の子の声援に まどかは体全体伸ばしてみた。すると風船に手が届く。

「届いた！」

と安心した瞬間、ズルッと手が木から外れてしまった。

(落ちる………)

咄嗟に田をつぶると、途端に強い風が吹きまどかの体がフワツと宙に浮いたかと思うと ゆっくりと地面に着いた。

「た、助かった……」

呆然としたが 田の前に女の子が大丈夫?と心配そうに顔を覗きこんできたので、慌てて笑顔になり

「大丈夫。はい、これ」

と赤い風船を女の子に渡した。

「お姉ちゃん、ありがと」

女の子が喜んで去っていくと、まどかは へたつと崩れ落ちた。

(ふう……また、風、に助けられちゃった)

そり、まどかにとつて これが初めてではなかつた。

一幼いころ、崖から落ちそうになつた時 いきなり強風が吹いて落ちずにはすんだりと、まどかは幼い頃から風のおかげで難を逃れていった。

しかし 何故風は守つてくれるのだろう。まどかはそれがわからずにいた。

「なんでなんだろ?...」

まじかが考へ出すと、じざひくじて

キー・ン・コーン・カーン・コーン

学校のチャイムが聞こえた。

「うつひやああ、遅刻〜！！」

まどかは慌てて走り出した。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8448o/>

光と闇にみちびかれて

2010年11月11日07時36分発行